

都立 第五福竜丸展示館ニュース

2017.07.01  
No.400

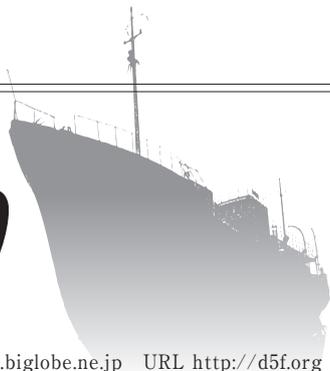
(7・8月号)

# 福竜丸だより

発行：公益財団法人 第五福竜丸平和協会

連絡所：東京都江東区夢の島2-1-1 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail：fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



修学旅行の生徒たち、多い日の朝は同時に4校来館。展示館西側入口の階段にて説明を行う。新しい企画展に見入る生徒。エンジン前でガイドするスタッフ



## 福竜丸だより

### 400号によせて

—ひろがりと活用をねがう—

「福竜丸だより」が創刊から四〇〇号となりました。最初の号は、一九七八年五月一日で展示館開館から二年目です。それまで発行されていた第五福竜丸や展示館に関するニュースは、「保存委員会ニュース」一九六九年七月二

五日第一号から七六年一月五日まで三四号、「平和協会ニュース」が一九七四年三月一日から八一年二月一日まで通巻一〇号です。

三種のニュースが作られていたそれぞれの役割の違いはその名称に端的に表れています。そして「福竜丸だより」一本となったのは、展示館の完成による保存運動の終了、展示館の管理が協会の主たる事業として確立し始めたことと関係し、「都立第五福竜丸展示館ニュース」とサブタイトルを冠して、展示館の模様

と第五福竜丸Ⅱ原水爆の惨禍がふたたびくりかえされないうように、と発信する「たより」として編集・発行されるようになったからです。

それは第五福竜丸と協会をサポートする方がた、来館し関心を抱く市民とをつなげる大切なメディアの役割を担うもので、同時に展示館の活動と人びとの係りの記録でもあります。

核兵器なき世界への航海をつづける、希少な木造船・第五福竜丸を活かすことは、この船を守り展示館・保存の実現からその後の館の運用にいたる大勢の方がたの努力、願いを今と次代に引き継ぐことでもあります。「福竜丸だより」の担う役割を改めて心に刻み発行しつづけたと思います。皆様のご意見・ご感想などお寄せ下さい。

# たより 400号を記念して 船を見つめた瞳 日々の展示館から



## 五月二一日(木)

今週は第五福竜丸建造の地・和歌山県串本町からの修学旅行が続く。

## 五月二三日(土)

雨の土曜日。団体予約はないが、カップルで見学していた二人に声をかけると、映画「シン・ゴジラ」を観て関心をもちましたとのこと。都内の博物館学芸員でした。

## 五月二六日(火)

今日は六校五五〇人、一般団体が二団体と予約も多いた。一般の来館者も多かった。「新木場の本社で内定を受けた。父からぜひここを見学するように言われた」という長崎出身の学生が、じっくりと見学していました。



大石さんを囲んで

◇四月二六日に駐日マーシャル大使館と展示館を訪問した高知県K中学校からの手紙が届く。

「マーシャル大使館のアンソットさん(\*公使)の話を聞いて、マーシャルと日本にはつながりがあることがわかりました。アネットさんの家族は水爆実験の影響で、ほとんどの人がガンで亡くなって、かわいそうだと思います。どうしてアメリカはビキニ環礁で実験をしたかと質問すると、ビキニ環礁はハワイから離れていて、ほかの国や人に倒る被害が少ないという理由で選ばれたそうです。でもどうしてビキニの人たちのことを考えなかったのかなと思いました。」

## 五月二七日(水)

午前中は山梨の小学生、岩手、三重の中学生、生協の見学やアメリカの大学生たちが旅行で平和学習をしていたこと。

## 五月二〇日(土)

カナダの大学生二〇人。地理学を専攻しており、埋立地をフィールドワークしているとのこと。午後ワイグル族の家族連れに話しかけられ、核実験のことを説明する。

## 五月二五日(木)

山梨の小学校二校一五〇人。大阪、宮城、三重、兵庫、岐阜、東京の中学校七校六〇〇人が絶え間なく訪れ、にぎやかな一日。館内は見学のみとして、大半の学校は館外でのガイド。初めてきた岐阜M



中からは合唱が捧げられる。「乾ききった大地に、一本の苗を植えよう 希望と愛を託して」(予感)片岡輝・作詞 大熊崇子・作曲)との歌声にスタッフ全員で聞き入る。◇この日来館した三重・H中から後日届いた手紙より

「第五福竜丸展示館にはたくさん資料がありました。その中には、私にとってあまり向き合いたくないような写真もありました。しかし、しっかりと向き合わなければいけない現実なので、その現実をしっかりと受け止めます。私は世界から核がなくなっただけはいいです。そうしたら平和で誰も争いで亡くなり悲しむ人

ように未来につなげていくか、考えながら見たいと思います。今日学ぶことをもとに、平和への願いを持ち続けていきたいです。どの国の子どもたちも、私たちと同じように寝る場所があり、ご飯を食べ、学校に行き、たくさん友達をつくる生活ができますように。一人ひとりの『命』が同じように大切にされ、誰もが生きていくことの嬉しさが実感できる生活ができますように。」

## 六月三日(木)

一〇年以上にわたり修学旅行で来館する三重・O中学校。船を囲むようにして並び、階段から二階までびっしりと座って学んだ二〇〇人の合唱「ビリーブ」が船と響きあい、館内を震わせた。



生徒たちで混雑する展示館

◇前日別会場で大石又七さんのお話しを聞き、全員で「大地讃頌」を合唱。翌日展示館を見学した三重・S中学校代表の挨拶

「私たちは事前学習で第五福竜丸について考えました。一人ひとりが感じたこと、それは『もっと平和について深く学び、考えていこう』ということです。第五福竜丸のことを学ぶことから、歴史の間だけでは知りえなかった、いろいろなことがわかってき



船首下にびっしり座り話を聞く生徒たち

アメリカの大学生が環境問題のスタディツアーで二四人、カナダの映像作家など。

## 六月四日(日)

大阪G中学校二二〇人。天気の良い日曜日なので家族連れも多く、マグロ塚のイベントに参加する人たちも次々に訪れる。

## 六月八日(木)

地元江東区内の芸術短大生一八名はマーシャルの人びとに関心が高く、質問が続く。「平和コース」を選んだ福井の中学生三〇名にガイド。

## 六月二〇日(土)

開館記念日。日本山妙法寺の平和行脚出発の特別見学会が行われる。自然観察教室やカルチャースクールのフィールドワークなど、おとなの見学者が続く。



もいない世界になると思います。そのためにも今、私にできることを精一杯できたいいなと思います。たくさんの方を知り、考える機会になりました。本当にありがとうございました。」

六月二日(木) 山梨の小学校五校三〇〇人、岐阜、愛知、三重、神奈川の中学校五校四五〇人。館外でもガイドするため、スタッフが何度も落ち葉を掃いています。クスノキが終わるとユーカリの落葉が続きます。

六月二日(金) 久保山碑のザクロ、「愛吉・すず」のバラがどちらもたくさん花をつけています。今日も小中学校六校九〇〇人。一〇〇人を超える学校が続くと、館内の気温も上がります。

# 平和の港を目指して 国際平和博物館会議報告

高原孝生

平和のための博物館国際ネットワークが主宰する「第九回国際平和博物館会議」が、四月一〇日から一三日にかけて、世界有数の造船の町、北アイルランド（イギリス）ベルファストのアルスター大学で開催されました。

会議には、平和博物館関係者や研究者、学生など、二二カ国から約一四〇名が参加し、三つの全体会議の他、二七の分科会が六つのセッションで併行して開かれました。日本からも二〇名以上の参加者があり、それぞれ「平和、社会的治癒、和解のための教育」や「双方向的な学びの場にするために」といったテーマの分科会でパネリスト

となったり、ひめゆり平和祈念資料館、立命館大学国際平和ミュージアム、アウシュヴィッツ平和博物館、松代大本営の保存活動、など個々の施設に関する報告を、館の関係者や当事者がおこなったりしました。また、会議期間中の展示（ポスターセッション）でも、日本からの参加がスペースの半分近くを占め、総じて日本のプレゼンスは大きかったと言えます。

## 「平和のための船」

そうした中、第五福竜丸展示館から国外での国際平和博物館会議に参加するのは、今回が初めてでした。会議を推進してきた中心人物の一人であるピーター・ヴァン・デン・デュンゲン教授は、かつて藤田秀雄理事（当時）の案内で展示館を訪問し、深い印象を受けたと話しておられ、



マイレッド・マグワイヤさん

自分の最も好きな平和博物館の一つだとも述べておられました。教授は、ブラッドフォード大学平和学部の中心人物の一人で、平和博物館に関する研究の第一人者です。今回、そのヴァン・デン・デュンゲン教授から、「平和のための船」という分科会を組織するので、そこで第五福竜丸展示館とそめざすものについて、パネリストとして発表をするよう、お誘いをいただいた次第です。

## 「航海」の報告

分科会は一二日に開かれ、前半では、ノーベル平和賞受賞者で二〇〇八年の九条世界会議にも来日されたことのあるマイレッド・マグワイヤさんが、ご自身の取り組まれているパレスチナ（ガザ）への海からの支援の試みについて講演し、さらにピースボートからカレン・ハローズさんが、世界諸地域の紛争を学ぶ活動について報告しました。

午後の会では、まず第五福竜丸展示館の活動を高原が紹介しました。船の現物を陸にあげて陳列していることの迫



市庁舎での全体写真

力を使って、ビキニ事件の概要、その後の世界の核実験被害、現在の核時代の危険な状況を、年間一〇万人（学校団体の見学は約四〇〇団体二万人）の来館者に知ってもらっており、まさに平和のため「第五福竜丸は航海中」であることを説明しました。

続いて、米国オハイオ州にあるウイルミントン大学平和資料センターのターニャ・マウスさんとその学生たち三名が、センターの諸活動に加え、かつてバーバラ・レイノルズ一家が遠洋航海し一九五八年に水爆実験水域に突入するという非暴力抗議行動をおこなったフェニックス・オブ・ヒロシマ号について紹介してくれました。

フェニックス号は現在、廃船としてカリフォルニアの港に沈んでいます。これを引き揚げて修理し、平和のための船として活用する計画が進んでいるとのこと。ヨットによる核実験抗議行動に先鞭をつけて、当時バーバラさんたちを感動させ、その後の平和活動へと駆り立てたゴールデン・ルール号も、廃船状態から修復されて、二〇一五年六月に進水しました。二隻のヨットで船先を並べ、被爆七五周年の二〇二〇年に広島を訪れる、という夢も描かれているそうです。（次の国際平和博物館会議は、二〇二〇年に広島で開かれることが検討されています。）

市庁舎で開かれた閉会レセプションでは、ベルファスト市長、ヴァン・デン・デュンゲン教授、および会議事務局長のペトラ・ケプラーさんに、それぞれ第五福竜丸の手ぬぐいと英訳付きの写真集を贈呈するとう場を設けていただき、あらためて展示館について参加者に知っていたく機会になりました。



語りつぐ  
ビキニ  
マーシャルの人びととの40年  
島田 興生

## ④ ジョン・アンジャイン元村長、イバイ島での半生

### 息子レコジの死

イバイの波止場から歩いて三分ほど所にジョン・アンジャインさんの住まいがあった。訪ねたのは一九七四年の七月で木造の平屋の一部屋を借りてジョンさんは再婚した妻マイラさんと三人の子と暮らしていた。部屋に入ると、ジョンさんは早速部屋の片隅から写真を取り出してきた。二年前一九歳で亡くなった四男レコジ・アンジャインの写真だった。ジョンさんの腕に抱かれた幼いレコジ、健康そ

うな若者の頃、病院での診察シーン、棺の中のレコジと別れを告げるジョン夫妻。

七二年一月、妻ミチユワさんと米国メリーランド州の病院に呼ばれたジョンさんは、ベットに縛り付けられた瀕死の息子に直面する。「体中の穴という穴から血が吹き出し、息子はのたうちまわって死んだ」とそのショックを後日語っている。

レコジの死がジョンさんに与えた衝撃は大きく、生涯、被ばくの後遺症と闘うジョンさんの原点になった。

## ジョンさんのイバイでの暮らし

マーシャル諸島のほぼ中央に位置するクワジェリン環礁イバイ島。ここには基地の建設で住む島を追われたり、仕事を求めて約八千人が住んでいた。過密人口と不衛生からイバイ島は「太平洋のゲットー（少数民族が住むスラム街をさす）」と呼ばれた。約八百人が米軍基地に働いているが、住民の大半はその日暮らし。住まいといえは一部屋



ジョンさんの最期はハワイに住む大勢の親族に見守られた（ロナ・パトリックさん提供）。

を教家族十数人が間借りするのも珍しくなかった。住民はロンゲラップ島民の窮状に無理解で、「近づくと病気になるよ」と避ける人もいた。十数回の米国への旅、四回の訪日を通じて米国や日本に多くの友人を得たジョンさんだったが、六五年頃にロンゲラップを離れて以後、亡くなるまで暮らしたイバイ島では孤独な存在だった。

妻マイラさんと死別した後、長女や長男の家を転々と

し、子どもは妻の親族に預け、ジョンさんは、九五年頃には、イバイ島のほぼ中央にあるバハイ教会の狭い控室で一人暮らし始めた。毎朝、ジョンさんは近くの店にコーヒーを飲みに行き、帰りに買ったパンか乾パンを教会に戻って紅茶に浸して食べる。甲状腺の薬も飲む。朝食が終わると教会と自室の掃除をし、その後散歩に出る。痛む足をかばい何か考え込むように体を傾け、強い日差しをのどをよと歩く。夜七時頃、子どもや親族が届けてくれた夕食を一人きりで食べる。そんなイバイの生活がずっと続いていた。

## 核による苦難を訴えつつ

二〇〇四年七月二日、ジョンさんはハワイのストラブ病院で亡くなった。六月にハワイで肺がんの検査を受けたが、七月一九日に緊急入院、この時がんは全身に転移し、翌日急死した。享年八二歳だった。

死亡する四か月前の同年三月焼津市で開かれた「ビキニ・

デー」に来日。七二年の初来日以来ジョンさんの日本訪問はこれで四度目だった。しかし、体調がすっかり衰えていたので寒い冬の日本訪問は相違巡したようだ。

来日後、その時の心境を「出発の一週間前、床に寝転んで考えた。たとえ生きて帰れなくとも、大したことじゃない」と思い、日本に来ることにした」と語っていた。少しでも、ロンゲラップのことを伝えたい、伝えることを止めてまで生きていても意味がないと考えたのだろうか。

ジョンさんの姪で元国会議員のアルバック・アンジャインさんは「ジョンの死は決して無駄死でない。多くの人と出会い、語り伝え、彼は満足して死んでいった」と言う。

その苦難に満ちた人生にもかかわらず穏やかで誠実な人柄は、会う人すべてを魅了した。しかし、ロンゲラップ被ばく者の精神的支柱だったジョンさんの死は、その後の島民の将来に計り知れない影響を残すことになった。

（しまだ、マコトせい／フォト・ジャーナリスト）

ワシントンからの通信③

核時代における歴史学とは

樋口 敏広

六月一日、核兵器を法的に禁止する条約の締結を目指す交渉の最終合点が国連で始まった。しかし、アメリカで

は政府のみならず主要メディアもこれに一切触れることはなかった。すでにオバマ政権期から条約交渉の不参加を宣言していたことを考えると、この無関心ぶりは驚くにあたらない。昨年一〇月二七日、

西欧諸国からもボイコットを表明した。二〇〇九年に核なき世界に向けた決意を表明したオバマが核兵器禁止条約実現の最大の障壁として立ちほだかったことに戸惑いを覚えた読者も多いと思う。

く知られているが、禁止と査察の優先順位をめぐる米ソ対立によって核兵器廃絶の道すがら失われたことは歴史の悲劇といえよう。

なぜ米国が核兵器の法的禁止だけ反対してきているのか。それを理解するためには、米国の核政策と生物・化学兵器政策を比較検討し、核兵器を特別視する「核の例外主義」の起源と展開を探ることが必要であろう。

一通の手紙から

市田 真理

入院中の第五福竜丸の乗組員たちへ、昏睡状態の久保山愛吉さんへ、遺族へ…。当時全国からたくさんのお見舞いの手紙が届けられました。その一通。



文字で綴られた手紙。差出人は長崎市江頭千代子さんです。

一九五四年九月二日消印の封筒。作文用紙二枚に端正な

「…一瞬にして母と三人の子を失い、一週間後には長男を、次いで夫をと、六人の家族をいまわしい、あの原子爆弾のいけにえとされた悲しい戦争未亡人なのです。昨日今日の新聞、ラジオで久保山さんのピキニ死の灰による容態悪化の報を聞くたびに、九年前の夫の死の床を思い出して、胸がうずく思いでじっとしていられないまま、恥ずかしさも忘れて筆を走らせて

て」しまったと書かれています。「悲惨な原爆の洗礼を受け、何年か後に自分もあした苦しい死の道をたどるのかと、またしても考えさせられてしまいます。」と不安も綴られています。「こんな悲しい思いは自分だけでたくさんだ」と思っていたのにと…。

皆さんに寄り添わせ、手紙を送った被爆者は少なくありません。しかし一方で、治療もされず省みられることのない「被爆者」として、第五福竜丸乗組員への「恨み言」が書かれた手紙もあるのです。見舞金への羨望・嫉妬がその後もずっと苦しめます。

第五福竜丸平和協会

新たな役員体制でスタート

― 一定時評議員会開催 ―

公益財団法人第五福竜丸平和協会の二〇一七年度定時評議員会は、五月二七日午後一時より学士会館にて開かれまし

の第五福竜丸建造七〇年に向けての企画展「この船を知ろう」(第五福竜丸の歴史、航跡をたどる)が昨年一月一九日から本年三月二六日まで開催されました。

議事は、最初に二〇一六年度事業報告が報告されました。入館者の総数は、

つづいて決算報告について審議されました(増減計算書は8面掲載)。それぞれの議案について質疑応答、討議がおこなわれ承認されました。

展示事業に関しては、常設展示の「核実験年表」および「第五福竜丸と展示館のあゆみ年表」がリニューアルされました。秋には、二〇一七年

第五福竜丸平和協会の代表理事として、長い間皆さんに支えられて私も大変勉強させていただきました。一九九一年に初代会長の三宅泰雄先生



のあとを引き継ぎ、四半世紀にわたりこの仕事をさせていただきました。

山本新代表理事の挨拶

一二年前に評議員をお引き受けした頃、静岡大学学生に大石又七さんに話しをしていただききました。一九九〇年に歴史学研究会で戦後史の総括的なシリーズを作り、そこで五〇年代前半の日本の経済社会について文章を書き、福竜丸被ばくの重要性を再認識したことを思い起こします。

川崎前代表理事の挨拶

第五福竜丸平和協会の代表理事として、長い間皆さんに支えられて私も大変勉強させていただきました。一九九一年に初代会長の三宅泰雄先生



理事・評議員・監事の方々(※新任の方のみ肩書・参考)

代表理事

山本義彦(静岡大学名誉教授)

理事

奥山修平、川口重雄、坂野直子(新任)、高原孝生(明治学院大学国際平和研究所長)

評議員

大石又七、桂川秀嗣、岸田

監事

浦野広明、澤藤統一郎(新任) 竹内誠(東京都生協連専務理事)、長田三紀(全国地婦連事務局長)、西原美香子(日本YWCA業務執行理事)、若林克俊(東京平和運動センター副議長)

協会顧問

浅見清秀、岩佐幹三、岩垂弘、柴田徳衛、杉重彦、藤田秀雄、藤原弘、堀田侑子、山村茂雄、吉田嘉清

協会懇談会ひらく

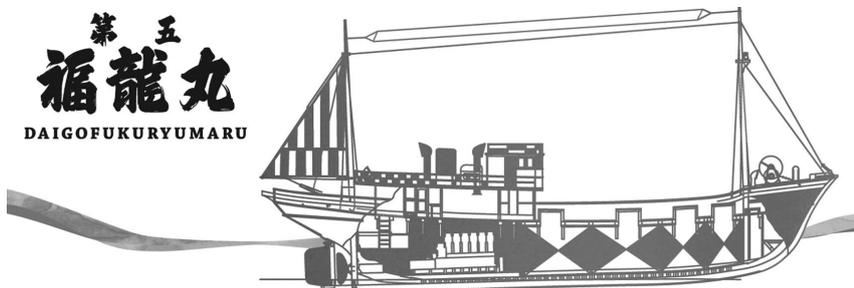
評議員会の開催について第五福竜丸平和協会の懇談会が開かれ、新任、退任の評議員、理事、監事、顧問の各氏が参加しました。

会では、長年協会の事業に貢献された顧問と退任の役員に感謝状と記念品が贈られました。つづいて出席者全員からスピーチをいただき午後五時に閉会しました。

## 建造 70 年記念手ぬぐい

第五  
福龍丸

DAIGOFUKURYUMARU



大好評だった建造 60 年記念手ぬぐいから 10 年、古稀を迎えた第五福竜丸の新しい手ぬぐいができました。前回同様に船体図面をベースに、浮かび上がるように色鮮やかで爽やかなデザインです。お土産や贈り物にいかがでしょうか。展示館内ショップにて 1 本 1000 円（税込）で販売中です（郵送も可）。

## 自衛消防訓練を行いました



6 月 16 日、展示館ボランティアの会が自衛消防訓練を行いました。城東消防署砂町出張所の方々にお越しいただき、疑似消化器を使った消火訓練や通報訓練、さらに応急救護と AED の講習を受けました。

胸部圧迫のやり方などは、より迅速に救護できるよう消防署の指導も年々変化しているそうです。これまで講習を受けたことのある人にとっても、最新のやり方を学ぶことができ、重要な機会となりました。

車両は公園の入り口に車止めがあるため、展示館前まで入ることができません。救急車など緊急車両が通る経路や誘導方法など、緊急時に求められる対応について消防署の方の意見を聞きながら確認しました。

また災害時の避難誘導などについても、適切な対応がとれるよう話し合い災害に備えることとしました。

ロンゲラップの海、  
伊勢の海

6 月は関係団体主催の行事が相次ぎました。

6 月 4 日「築地にマグロ塚を作る会」（代表大石又七）の歌と朗読と講演の集い「忘れまい！ビキニ被爆 63 年そしてフクシマ」が夢の島マリーナ行われ 78 人が参加しました。長編詩「ロンゲラップの海」（石川逸子）を軸にした歌と朗読に続き、今春まで高知総局で核実験で被災した漁船と乗組員を取材していた西村奈緒美記者の報告がありました。大石又七さんは「わたしは放射能の恐ろしさ、被ばくの体験を中学生や高校生に語り続けてきました。偏見や差別、悔しい思いもした。核実験をしたアメリカにその悔しさをぶつけたい」と語りました。



17 日には「ビキニふくしまプロジェクト」のつどいが開かれ 70 人余が参加しました。羽生田有紀さんによる「ふるさとかえりたい」の朗読、「ロンゲラップの海」の詩劇があり、客席

には作者の石川逸子さんの姿も。後半では安田和也・市田真理学芸員のマールシャル訪問の報告、続いて井戸川克隆・前双葉町長が講演しました。

10 日には三重県伊勢市で「伊勢と第五福竜丸」と題した集いがコープみえ、(株)ゴーリキ、第五福竜丸平和協会の主催により開かれました。200 人を超える参加者に、地元メディアの取材もあり話題となりました。福竜丸展示館に修学旅行で訪れた中学生の作文朗読、はやぶさ丸に改修した設計士・木村九一さん、強力造船所工場長だった吉岡雄毅さん、(株)ゴーリキの強力修会長による鼎談が興味を引きました。これに先立ち協会の、安田和也事務局長が「伊勢と第五福竜丸」について講演しました。会場には第五福竜丸ビキニ事件に関するパネルと三重県での被害を報じる新聞切り抜きが展示され、「初めて知りました」と訪れる人たちの関心呼びました。

## 平成 28 年度正味財産増減計算書

単位 (円)

経常収益 (合計)	29,470,768
基本財産運用収益	3,723
事業活動収益	26,837,098
受取会費	1,745,500
受取寄付金	812,853
雑収益	71,594
経常費用 (合計)	28,795,968
事業費 (計)	26,867,635
公益目的事業 (展示保存・資料収集・普及広報)	26,180,692
その他の事業 (出版物・記念品頒布)	686,943
管理費	1,928,333
当期経常増減額	674,800
当期在庫増減額	△ 113,965
当期一般正味財産増減額	674,800
一般正味財産期首残高	28,211,739
一般正味財産期末残高	28,772,574
正味財産期末残高	28,772,574